

平成29年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立北山中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。これは、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図ることが目的です。学校においては、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることやこれらの取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善を確立することを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成29年4月18日(火)

■ 調査の対象学年

中学校3年生

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A、数学A〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B、数学B〕
<ul style="list-style-type: none">・ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・ 実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	<ul style="list-style-type: none">・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況、児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

■ 調査結果及び考察について

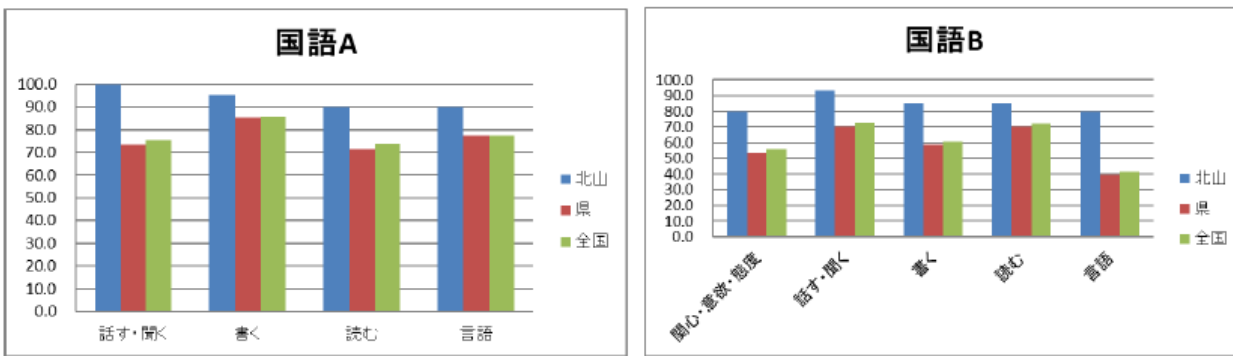
全国学力学習状況調査は中学3年生（小学6年生）と限られた学年が対象であり、教科は国語と数学（算数）に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野（問題）です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語

(1) 結果

全国正答率との比較



すべての領域で全国平均を上回っており、基本的な学習内容は定着していると考えられる。無回答者がいた問題はなく、時間的にも余裕を持って問題を解くことができたと思われる。

(2) 成果と課題

話す・聞く

・正答率は全国平均を A 問題で22.6ポイント、B 問題で20.9ポイント上回っており、基本的な学習内容は定着していると考えられる。

書く

・A 問題の正答率は全国平均をやや上回っており、基本的な学習内容は定着していると言える。またB問題においては全国平均よりも25ポイント上回っており、書く力は身に付いているといえる。本校の生徒たちは国語の授業だけではなく、生徒会活動など普段の生活の中で文章を書く機会が多いので100字前後の作文を書くのに慣れていていると考えられる。

読む

・A問題の正答率は全国平均を16.2ポイント、B問題は全国平均よりも12.9ポイント上回っており、読む力が身に付いているといえる。ただし、「場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容を理解する」問題が全国平均より4ポイント程度下回っているため、物語を読む際には誰の発言かを意識しながら読むように指導する必要がある。

言語事項

・A問題の正答率は全国平均よりも17.8ポイント高く、学習内容が定着していると言える。また、B問題においては正答率が38.6ポイント全国平均より高かった。言語事項においては漢字も文法も学習内容が定着していると考えられる。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 授業をはじめ、ブロック集会や朝の会などで、自分の考えを発表し意見交流する場を数多く設定しています。その際、メモを取りながら聞き取り、意見交流をすることで、話のポイントを押さえさせています。そうすることで、友だちの意見を聞き、自分の意見を発表するなどのコミュニケーション能力の習得を目指します。
- 朝の読書や地域のボランティアの方々による読み語りや、多読者表彰など、読書を推進しています。読書に親しむ態度を育てることで、考え方の視野を広げることもちろん、読む力・聞く力を養います。
- 授業においては、めあてを持ち学習し、授業のふり返りを行っています。何を学習するのか、何が理解できたかを明確にさせることで、学習内容の確実な定着を図ります。
- 国語辞典と漢和辞典を教室の廊下に常に設置することにしました。国語の授業中は、机の上に置いて、分からない言葉があったらすぐに調べるように習慣づけ、主体的に学習に取り組む姿勢を身につけています。

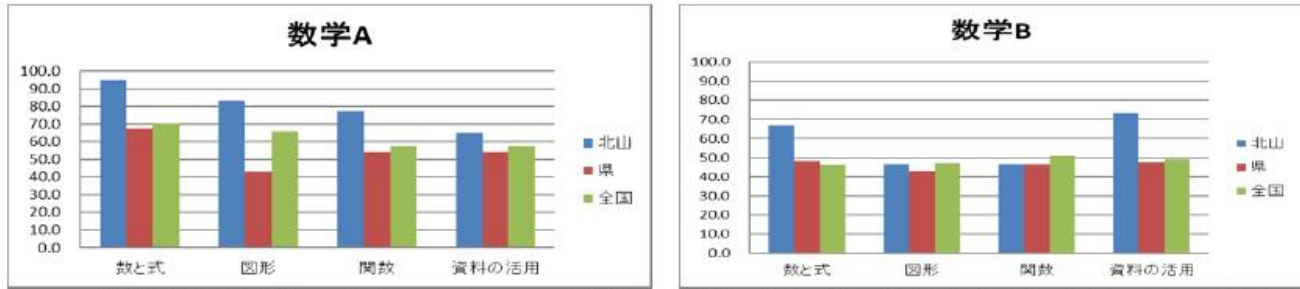
【ご家庭では】

- 本や新聞に親しむ機会を増やしましょう。本に書かれているいろいろな表現や、著者や登場人物の考えに触れることで、語彙力を高めたり、知識の幅を広げたりすることができます。
- お子さんが日ごろから日記などをつけるのもお勧めです。習慣化すれば「いつ、どこで、何をした」という文章の基本を自然と身に付けることができ、文章力を高めることにつながります。
- 試験では、限られた時間内に、正確に読み取り、指示を守り的確に答えることが必要になります。学習プリントや問題集などを活用して、時間を意識して解く練習をすることで力を伸ばすことができます。

2 数学

(1) 結果

全国正答率との比較



基礎的な知識を問う A 問題ではすべての領域が、県平均、および全国平均を上回ることができた。活用力を問う B 問題では、すべての領域で県平均を上回ったものの、全国平均と比較すると、図形の領域において下回り、関数の領域ではほぼ同じであった。資料の活用の領域では、A 問題より B 問題の方が突出してよかった。全体的に見て、無回答率は低く、基礎的な知識や計算処理などの技能に関する問題はよくできている。数学的な見方や考え方がやや弱く、意味を説明したり、記述したりすることは苦手である。

(2) 成果と課題

数と式

・A 問題、B 問題ともすべての問題で全国平均を上回っている。A 問題の基本の計算問題ではほとんどの問題で8割以上の正答率であった。B問題で、式の意味を説明するところに課題がみられた。技能のみでなく、題意を理解して問題を解く指導が必要である。

図形

・A 問題ではほとんどの問題で、全国平均を上回ることができたが、B 問題では半分ほどであった。図形の性質を的確に捉えていなかったり、新しい性質を見い出して説明したりすることができていなかった。図形の性質を説明しながら導いていくことや、図形に対するいろいろな見方や考え方を広げていくことが必要である。

関数

・A 問題、B 問題ともに、問題による正答率の差が大きかった。関数の用語の意味やグラフや事象の意味を説明することができていなかった。計算して求めることはできていたので、日常の事象を扱って説明させたり、式と表、グラフの関係を考えさせたりすることで、理解を深めていく必要がある。数と式の領域はよくできているので、方程式と関連させて考える問題を取り扱い、定着を図っていく。

資料の活用

・B 問題ではすべての問題で、全国平均を上回っていた。B 問題の資料の整理に関する問題や A 問題の確率を計算で求めることはできていた。確率の用語の意味を理解していなかったため、意味を理解した上で、問題解決をさせる必要がある。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 朝の時間や放課後学習会を利用して補充的な学習を行い、学力の定着を図ります。
- 授業では、友だちの考えを聞いたり、自分の考えをまとめたり、他の人に伝えたりする言語活動を多く取り入れ、数学的な見方や考え方を育成し、思考力、活用力を高めます。
- 学習ワークや基礎練習問題の指導、ノートチェックや家庭学習の課題チェックを丹念に行い、個々のつまづきを早期に見つけ、学習習慣の確立と補充指導に努めます。

【ご家庭では】

- 数学は積み上げの教科です。ノートと紙さえあれば勉強ができる教科とされています。毎日1日10分でも計算を続けていくと、力がつきます。授業があった日に復習をすると、1度忘れても思い出すのが容易になります。学習習慣のリズムができると、課題も楽になっていきます。「継続は力なり」です。最後まであきらめずに解くことが大切です。解けた喜びを味わうと、数学が楽しくなってきます。励ましの言葉をお願いします。

3 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べています。	100.0	93.2
毎日、同じくらいの時刻に寝ています。	100.0	75.6
平日、ゲームをするのは1時間以内である。	66.7	40.9
平日、テレビを見る時間は2時間以内である。	33.3	50.8
友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。	83.3	50.5
友達の話や意見を最後まで聞くことができる。	100.0	94.6

朝食・起床・就寝については全国平均を上回り、「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムも概ねできているようである。給食も好き嫌いなく、毎日完食できている。実際、学校でも具合が悪くなり、保健室へ行くこともほとんどない。家庭の協力によるものである。

平日にゲームを0～1時間する生徒が、半数以上であった。平日にテレビを2時間以上見る生徒が半数以上であった。昨年に比べ、テレビを見る時間が長くなっている。

昨年に比べ、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」の項目で、「当てはまる・どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒は増加し、昨年同様、「友達の話や意見を最後まで聞くことができる。」の項目で「当てはまる・どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒は100%となっている。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
平日1時間以上勉強している。	83.3	69.6
休日1時間以上勉強している。	100.0	69.4
家で、自分で計画を立てて勉強している。	50.0	51.5
家で、授業の予習をしている。	0.0	31.7
家で、授業の復習をしている。	83.4	50.5

学習時間は、平日、休日ともに1時間以上勉強している生徒の割合は、全国平均を上回っている。また、家庭学習で授業の復習をしていると答えている生徒の割合も全国平均を上回っている。

しかし、自分で計画を立てて勉強している生徒は、「どちらかといえばしている」は50%だが、確実にしている生徒は0%であり、また、家庭学習で授業の予習をしている生徒は0%である。毎日、家庭学習に取り組んでいるものの、積極的に学習に取り組む姿勢については改善していかなければならない。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 学習に対する意欲が向上するよう、毎日「自主学習（自学）」を宿題として出しています。帰りの会で、その日の家庭学習計画（教科や内容、時間等）を立てさせています。時間をかけた、内容の充実した自学ノートを提出する生徒が増えてきています。
- コミュニケーション能力を向上させるために、毎日の朝の会、毎月のブロック集会、委員会活動等の様々な場面で、スピーチ活動（原稿を見ずにスピーチ）を行っています。調査結果でも分かるように、人前での発表に自信を持てるようになってきました。今後も継続していきます。

【ご家庭では】

- 「学習の手引き」を配布しています。各教科の授業への取り組み方と、家庭学習の取り組み方が掲載されています。これも参考にされて、毎日家庭学習に取り組むお子さんへのアドバイスをお願いします。
- 家族との会話や地域の人々との交流を通して、子どもたちのコミュニケーション能力が高められ、自分に自信が持てるようになると思います。子どもたちが1つ成長したら、その度にみんなで励ましたり褒めたりしてあげてください。